

【令和4年度 諮問第1号】

横須賀市立地適正化計画の見直し（案）

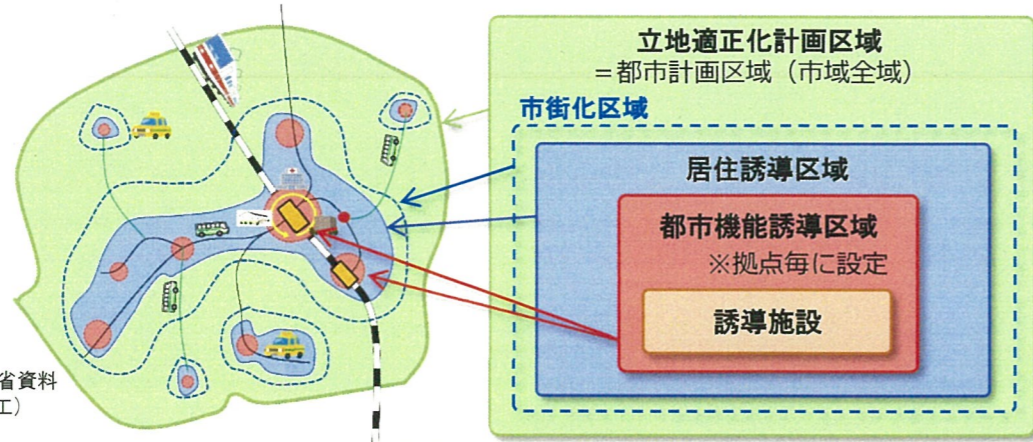
# 1. 立地適正化計画制度について

## (1) 策定の目的

- ◇近年、全国的な人口減少及び少子高齢化の到来を背景として、高齢者や子育て世代等にとって安心できる健康で快適な生活環境を実現することや、持続可能な都市経営を可能とすることが課題
- ◇本市は、全国的な趨勢に先行するように、平成4年をピークとして人口減少と併せて高齢化も進行しており、時代変化に伴う諸課題に対しては、喫緊の対応が必要
- ◇平成26年8月に都市再生特別措置法等の一部を改正する法律が施行され、各市町村は、コンパクトプラスネットワーク型の都市づくりを進めるための「立地適正化計画」を作成できることとなり、本市においても、都市計画マスタープラン等でのコンパクトで利便性の高い都市づくりに向けた取組を更に具体化し、進展させていくため、平成31年(2019年)3月に立地適正化計画を策定

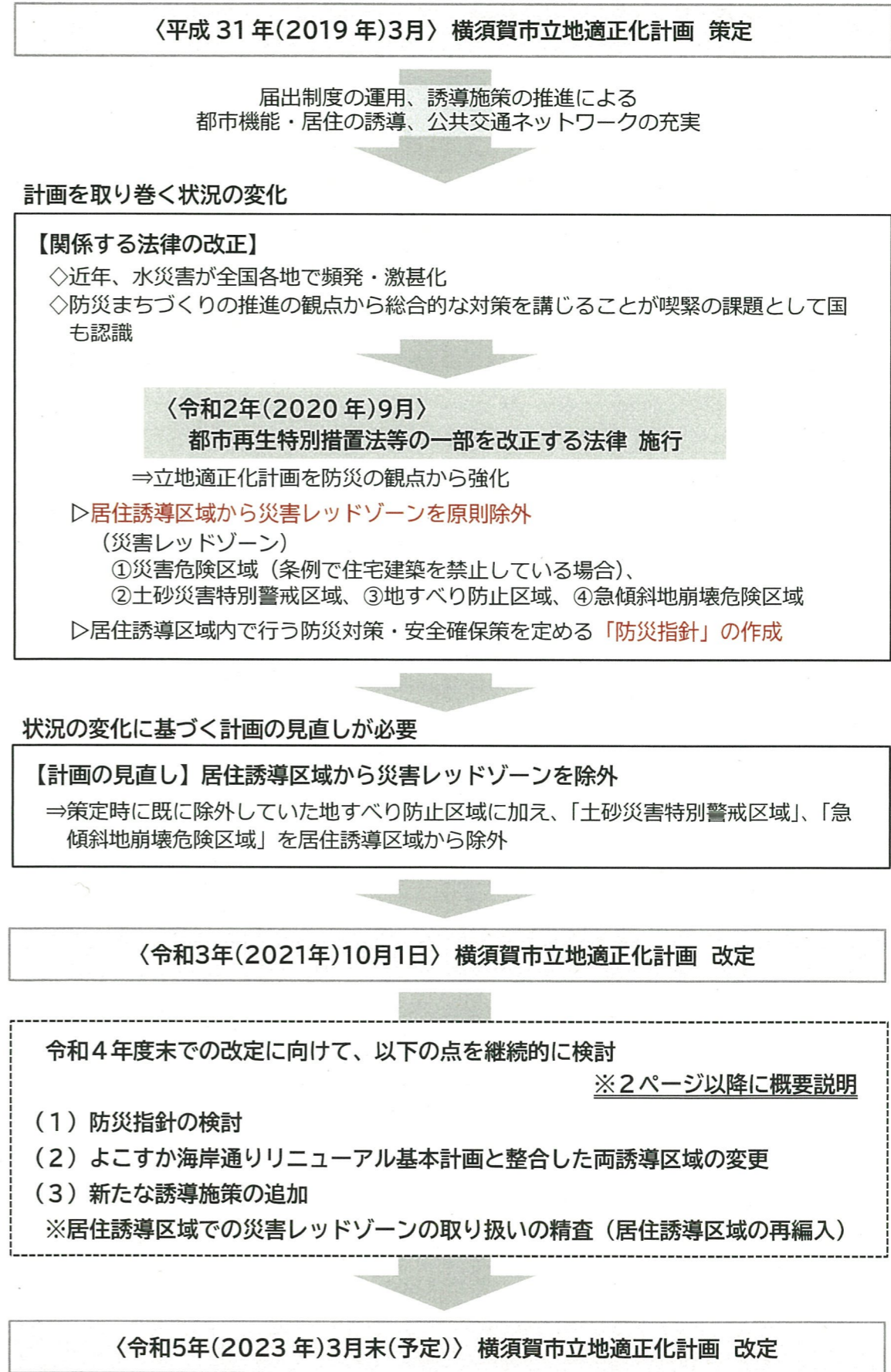
## (2) 計画の内容

- 立地適正化計画の区域**  
⇒都市計画区域全体が立地適正化計画区域となるため、横須賀市では市域全域です。
- 立地適正化計画に関する基本的な方針**  
⇒計画により目指すべき将来の都市像を示します。
- 都市機能誘導区域**  
⇒商業・医療・福祉等の都市機能を都市の拠点に誘導して集積することで、各種サービスの効率的な提供を図る区域です。
- 誘導施設**  
⇒都市機能誘導区域毎に、地域の人口特性等に応じて必要な都市機能を検討し、立地を誘導すべき施設を設定します。
- 居住誘導区域**  
⇒人口減少の中にあっても人口密度を維持し、生活サービスや公共施設等が持続的に確保されるよう、居住を誘導すべき区域を設定します。
- 防災指針**  
⇒居住誘導区域等での災害リスクを分析し、リスクの回避・低減に必要な取組等を示します。
- 誘導施策**  
⇒都市機能や居住の誘導を図るために必要な施策を整理します。
- 目標値の設定・評価方法**  
⇒施策等の達成状況と効果を評価・分析するための目標値等を設定します。



出典:国土交通省資料 (一部加工)

# 2. これまでの経緯・今後の予定





### 3. 今回の改定の概要（ポイント）

#### (1) 防災指針の検討

##### ①防災指針の検討内容

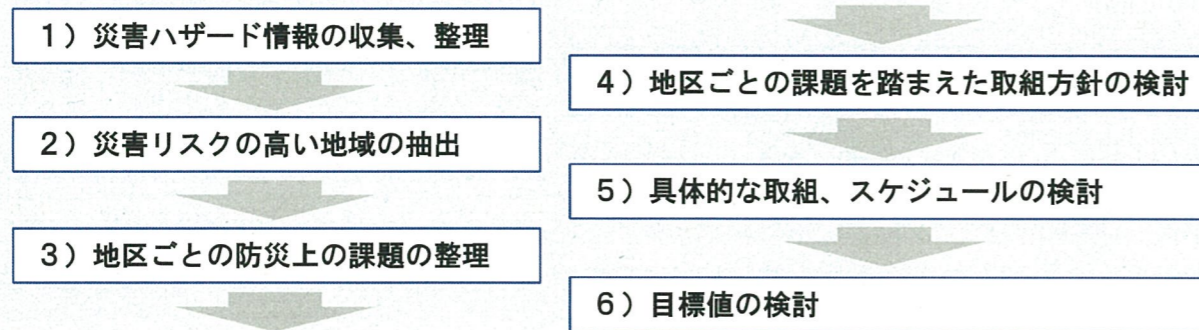
◇国においては、防災まちづくりの検討において、以下の点を重要視しています。

- ▷洪水（外水氾濫）、雨水出水（内水）、津波、高潮、土砂災害などの**災害要因毎に検討を行うことが必要**であるとともに、災害が同時に発生することによる被害の拡大等も想定し、これらの災害を統合的に検討することが必要であること
- ▷浸水するエリアの広がり、浸水の深さ、浸水継続時間等は、**設定するハザード情報の設定条件（降雨の規模等）や治水事業等のハード対策の進捗状況等により異なるため、これらの条件やハード対策等の現状及び将来の見通し等を踏まえた上でのリスク分析が必要**となること

- ◇これらの視点を踏まえ、水災害に関するリスク分析や対策の検討等の望ましい考え方を示すものとして、令和2年9月、国土交通省は、従来の立地適正化計画作成の手引きを増補する形で「**防災指針作成のためのガイドライン**」(※以下「**手引き**」という)を公表しました。
- ◇立地適正化計画を検討する各市町村は、原則、この手引きに基づいて**防災指針を検討**するものとなります。

##### ②防災指針の作成の流れ

◇手引きでは、次の流れにより検討を進めるものとしています。



##### ③災害リスクの高い地域の抽出

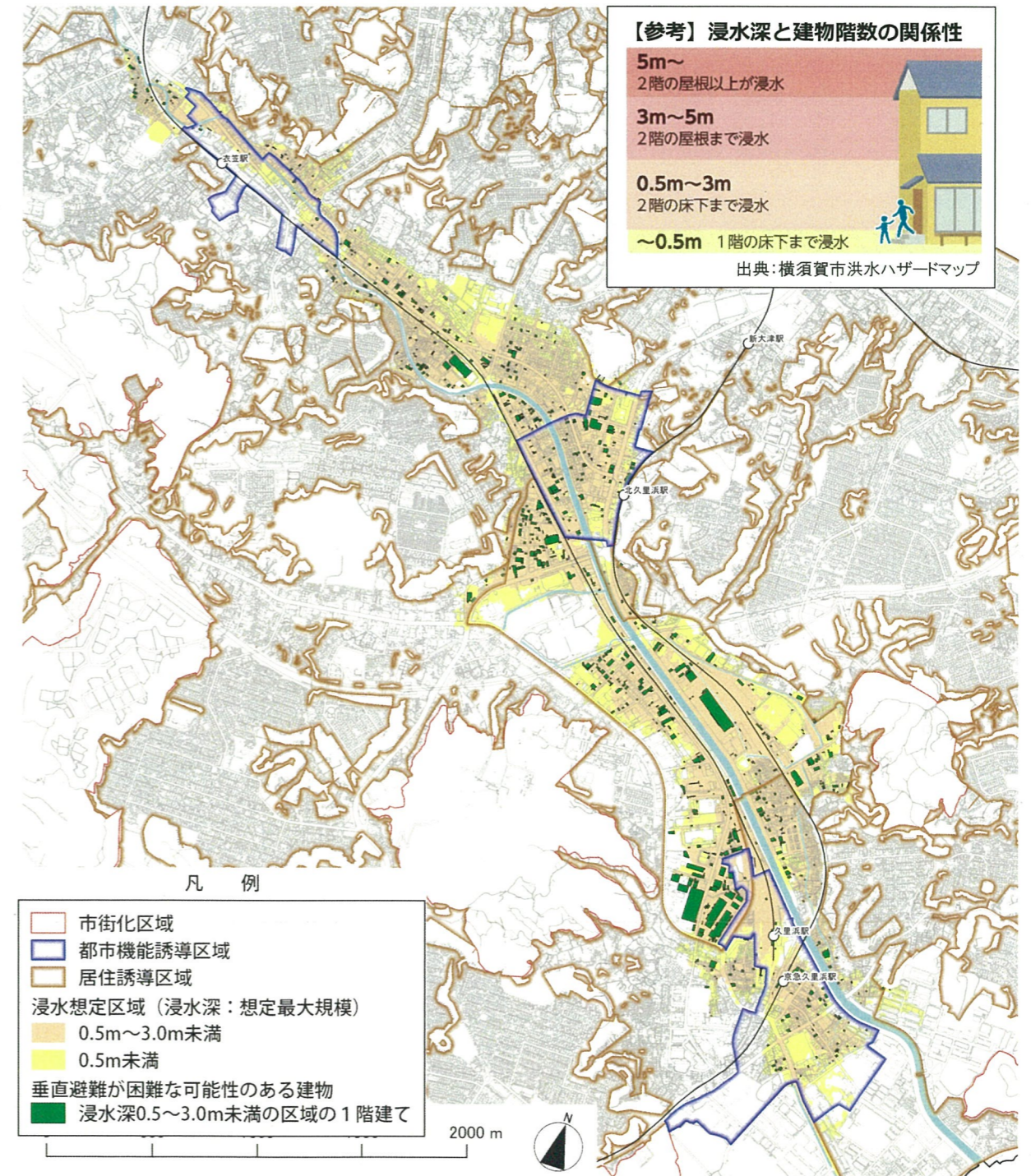
◇本市で想定される災害ハザード情報について、住宅の分布、避難所、病院等の都市情報と重ね合わせ、災害リスクの高い地域を抽出するための分析を行いました。

【災害ハザード情報と都市情報の重ね合わせと分析の視点(主要内容)】

災害ハザード情報		都市情報	分析の視点
洪水	洪水浸水深（想定最大規模）	建物階数	垂直避難での対応の可能性
	洪水浸水継続時間	避難場所	避難場所の活用の可能性
内水	内水浸水深（想定最大規模）	住宅分布	長期にわたる孤立の可能性
		建物階数	垂直避難での対応の可能性
津波	津波浸水想定	建物階数	垂直避難での対応の可能性
		避難場所	避難場所の活用の可能性
高潮	高潮浸水深	建物階数	垂直避難での対応の可能性
		建物分布	住宅等の損壊の危険性
土砂災害	土砂災害(特別)警戒区域	建物分布	住宅等の損壊の危険性
	急傾斜地崩壊危険区域	建物分布	住宅等の損壊の危険性
	地すべり防止区域	建物分布	住宅等の損壊の危険性

【分析の一例（洪水浸水深と建物階数の重ね合わせ）】

- ◇災害リスクの高い地域の抽出の一例として、以下の図面は、平作川の浸水想定区域（浸水深：想定最大規模）と建物階数との重ね合わせ図です。
- ◇建物階数が想定最大規模の想定浸水深に対して低く、垂直避難が困難な可能性のある建物は、平作川では、0.5～3.0m未滿の浸水深が想定されている区域内にて、1階建てが点在して立地しています。特に、衣笠駅から北久里浜駅間や久里浜駅・京急久里浜駅周辺のエリアは、居住誘導区域内ですが立地が見られます。

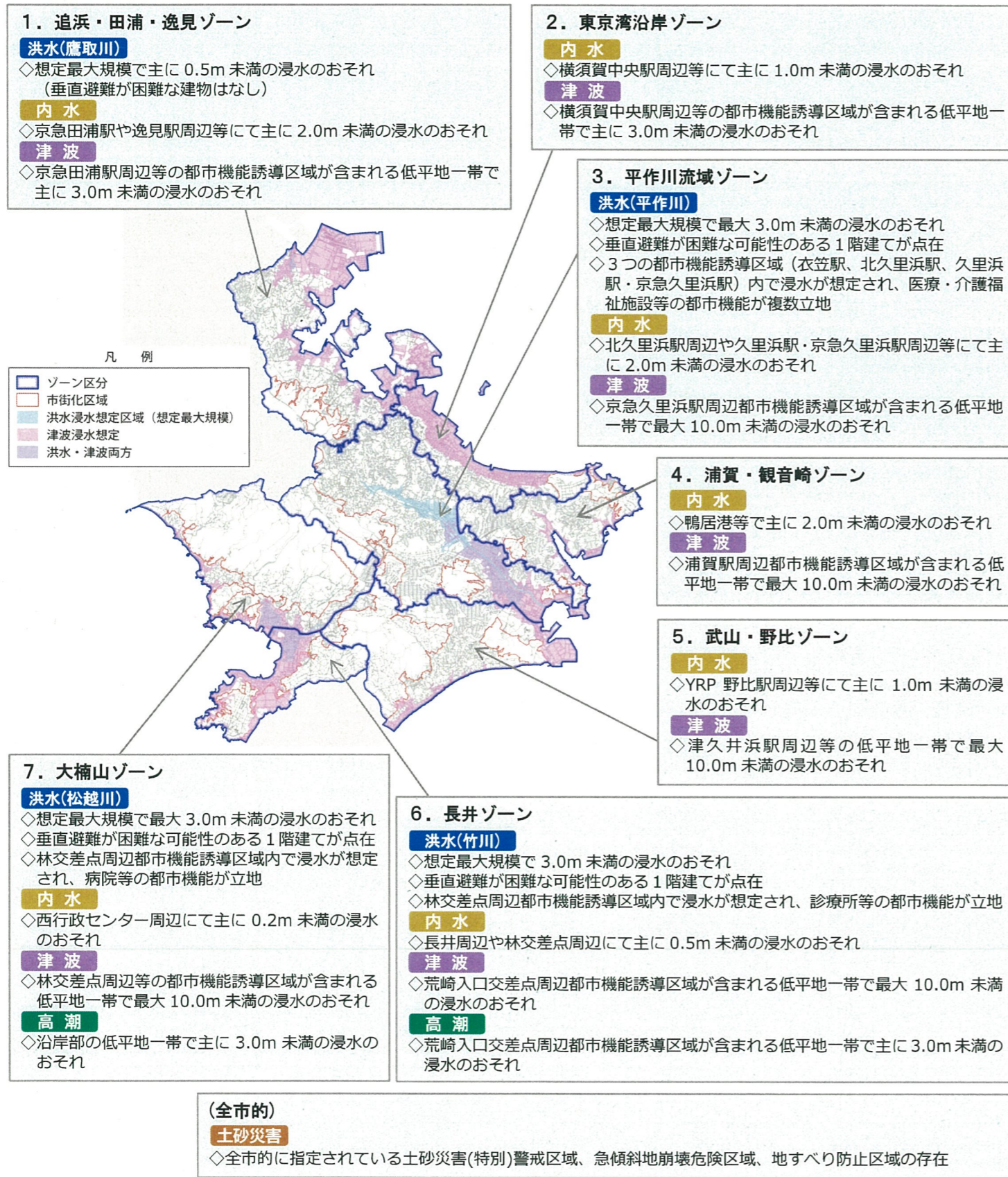


出典：河川の氾濫による浸水想定区域(神奈川県)、都市計画基礎調査(H28年度)



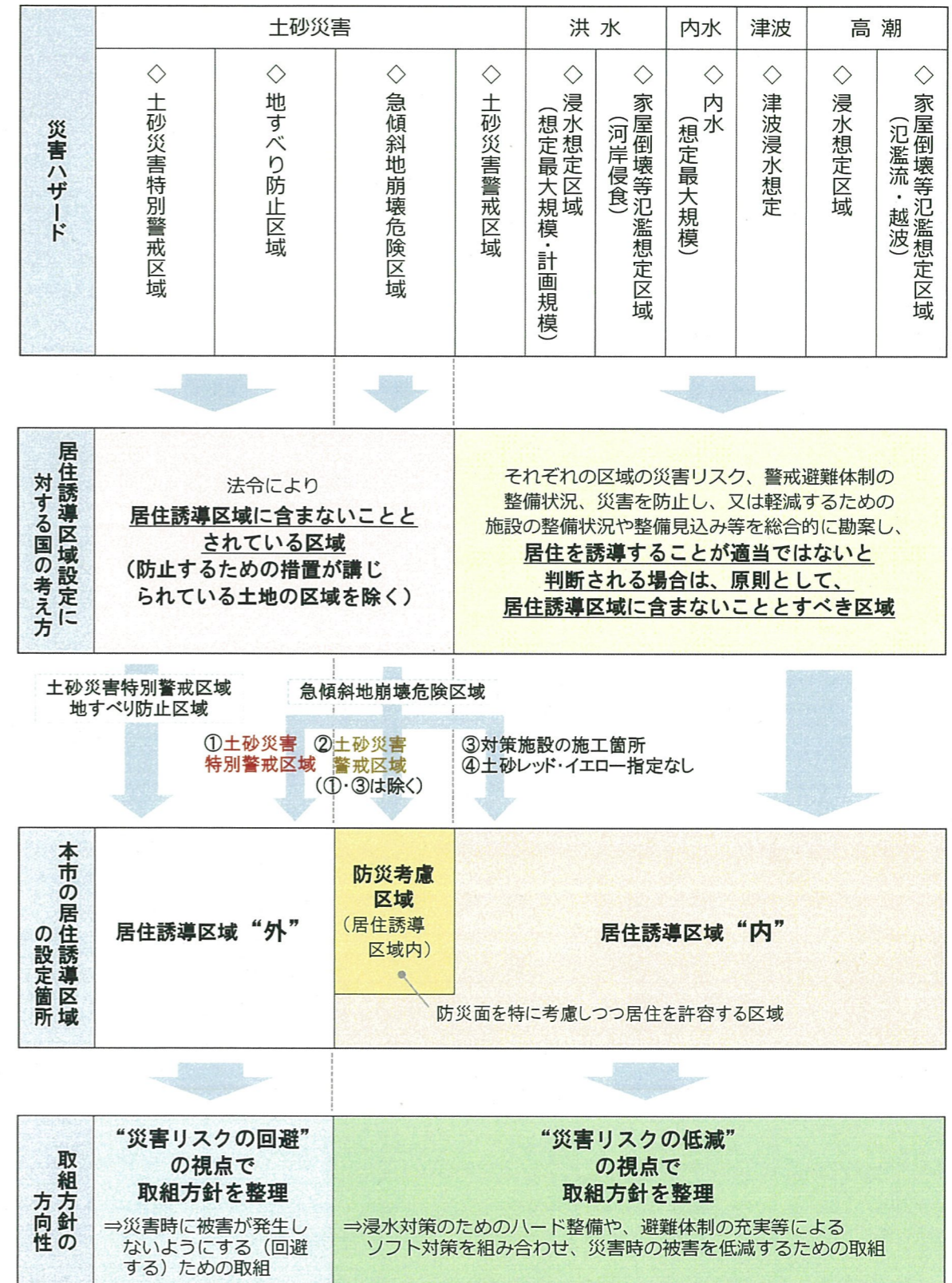
#### ④地区ごとの防災上の課題の整理

◇河川流域や集水域等をもとに区分した7つのゾーンごとの課題（想定される災害リスク）は、主に次のことが挙げられます。



#### ⑤取組方針の方向性

◇災害ハザードと居住誘導区域の設定の考え方を踏まえた取組方針の方向性は次のとおりです。





⑥取組施策、スケジュール

◇取組方針に基づく取組施策、スケジュールを整理します。取組施策については、横須賀市地域防災計画や横須賀市国土強靱化地域計画と整合を図りながら整理を行っています。

◇今後、これらの内容をもとに、災害リスクの回避・低減に向けた取組を推進します。

視点	方向性	災害ハザード					取組施策	実施主体	スケジュール		
		洪水	内水	津波	高潮	土砂			短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
災害リスクの回避	危険回避					●	1) 本計画の届出制度に基づく住宅の立地誘導	市	→		
						●	2) 移転施策の導入可能性の検討	市	→		
災害リスクの低減(ハード)	インフラ等整備	●	●	●	●	●	3) 災害時の道路ネットワークの確保のための都市計画道路の整備、橋りょうなどの耐震補強	国・県・市	→		
		●	●	●	●	●	4) 緊急輸送道路沿道建築物の耐震化	市	→		
		●	●	●	●	●	5) 公園施設の改修等に合わせて機能充実による防災機能の強化	市	→		
		●	●	●	●	●	6) 主要な鉄道駅周辺や密集市街地での市街地開発事業の計画的推進による建築物等の耐震性の向上	市	→		
		●	●	●	●	●	7) 戸建住宅及び共同住宅の耐震化のための工事費用の助成	市	→		
		●	●	●	●	●	8) 公共建築物の耐震診断・耐震補強	市	→		
		●		●	●		9) 建設年度が古い河岸護岸の改修・補強・嵩上げ等の必要な対策の実施	県・市	→		
				●	●		10) 港湾施設の整備による高波浪、津波、高潮などに対する防護機能の強化	市	→		
					●	●	11) 主要な漁港施設の耐震、耐津波化	市	→		
					●	●	12) 高波浪、高潮、津波による越波を防ぐための護岸、堤防、離岸堤等の海岸保全施設の整備	市	→		
						●	13) 近郊緑地保全区域内の適切な保全に向けた土砂崩壊防止施設等の必要な施設整備	市	→		
						●	14) 急傾斜地崩壊対策事業の促進	県	→		
				●			15) 排水施設等の計画的な施設更新による浸水被害の軽減及び公衆衛生の確保		→		
		災害リスクの低減(ソフト)	啓発	●	●	●	●	●	16) 各種ハザードマップ等の周知による注意喚起と正確な情報の提供	市	→
検討	●		●				17) 戸建て住宅の高床化等に向けた地区計画の導入可能性の検討	市・市民	→		
対策支援	●		●	●	●	●	18) 各種施設(社会福祉施設、高齢者施設、児童福祉施設等)での防災環境の整備支援	市・事業者	→		
							19) 既成宅地防災工事等助成事業の活用推進	市	→		
避難・防災体制の充実	●		●	●	●	●	20) 要配慮者等のための避難所・施設(福祉避難所)の確保	市	→		
	●		●	●	●	●	21) 地域による防災活動等の推進に向けた自主防災組織の結成・育成の推進	市・市民	→		
情報発信	●		●	●	●	●	22) 市民への多様な手段による災害情報の確実な伝達、設備の運営・管理	市	→		
	●		●	●	●	●	23) ホームページや防災マップ等を活用した避難所等の周知	市	→		
	●		●	●	●	●	24) 緊急時の円滑な避難のための広域避難地標識板等の管理・補修	市	→		
	●		●	●	●	25) 新規計画と連動した避難誘導等の適切な情報発信(案内サインの新設等)	市	→			



## (2) よこすか海岸通りリニューアル基本計画と整合した両誘導区域の変更

- ◇横須賀中央駅等の中心市街地の東側海沿いを通る「よこすか海岸通り」については、魅力的かつ親しまれる道へとリニューアルを進めるため、令和4年3月に「よこすか海岸通りリニューアル基本計画」を策定し、よこすか海岸通りの街側を対象に、整備の考え方や導入機能についての方向性が示されました。
  - ◇それら取組については、立地適正化計画において都市機能誘導区域を設定した横須賀中央駅等周辺の拠点性の向上に大きく貢献するものとなります。
  - ◇そのため、国の支援制度（※）等を効果的に活用し、取組の効果を最大限に発揮するため、よこすか海岸通りの大部分を都市機能誘導区域及び居住誘導区域に含めるための区域変更を行います。
- ※国土交通省の社会資本整備総合交付金（道路事業）を予定

### ①よこすか海岸通りリニューアル基本計画の概要

#### リニューアル基本方針

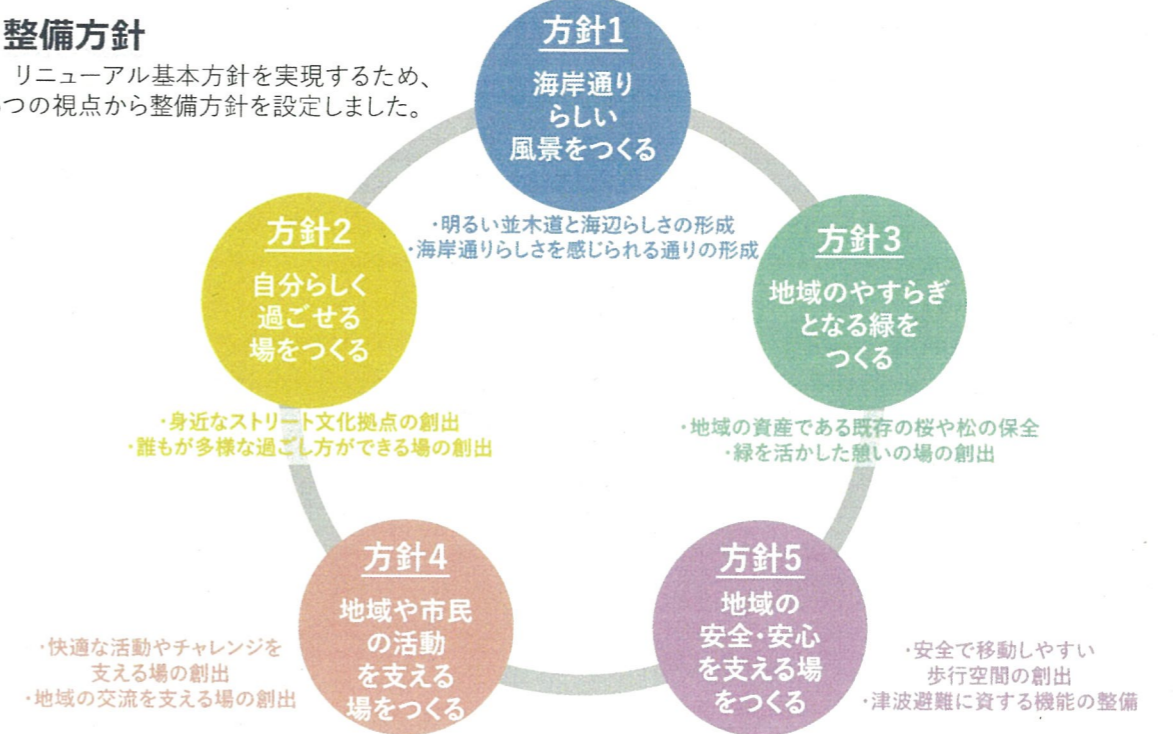


#### 魅力的かつ親しまれる道＝みんなの暮らしの舞台となる道

社会環境やライフスタイルの変化に対応し、多様な使い方ができることで通過するだけでなく滞在されるような新たな道路空間を形成するとともに、海岸通りらしさを感じられ、誰もが自分らしく過ごすことができ、暮らしの一部となる地域の賑わい・交流の拠点

#### 整備方針

リニューアル基本方針を実現するため、5つの視点から整備方針を設定しました。



#### ゾーニング・導入機能・導入施設

The map illustrates the zoning and introduction of functions and facilities along the coast street. It is divided into three main zones:

- グリーンゾーン (Green Zone):** Focuses on preserving and utilizing existing greenery.
  - 既存樹を活かした緑豊かなゾーン** (Green zone utilizing existing trees): Preserves cherry and pine trees and creates green spaces like parks and greenways.
  - グリーンゾーン** (Green Zone): Preserves cherry trees and pine trees, and sets up greenways and signs.
- カルチャーゾーン (Culture Zone):** Focuses on creating a vibrant cultural atmosphere.
  - 多様な楽しみがある海岸通りカルチャーの発信ゾーン** (Cultural hub zone with diverse fun): Combines sea views with art, cafes, and coworking spaces.
  - カルチャーゾーン** (Culture Zone): Creates new exchange and leisure spaces by combining sea views with art, cafes, and coworking spaces.
  - カルチャーゾーン** (Culture Zone): Utilizes existing monuments for art and uses kitchen cars for events.
  - カルチャーゾーン** (Culture Zone): Creates a dance spot where everyone can enjoy dancing.
  - カルチャーゾーン** (Culture Zone): Creates an exchange space where everyone can enjoy shopping and dining.
- ウェルネスゾーン (Wellness Zone):** Focuses on promoting health and safety.
  - 心身の健康増進・トレーニングゾーン** (Physical and mental health promotion/training zone): Promotes health through sports and leisure activities.
  - ウェルネスゾーン** (Wellness Zone): Promotes health through daily activities and leisure.
  - ウェルネスゾーン** (Wellness Zone): Promotes health through daily activities and leisure.

**導入機能 (Introduction of Functions):**

- 安全性の確保、アクセシビリティや回遊性の向上、津波発生時のすみやかな避難誘導を促す機能を導入します。また、海辺らしい景観を継承していくとともに、海岸通りの回遊性を高めていきます。
- 安心・安全に通行できる歩行者・自転車分離
- 地域のアクセシビリティや回遊性を高めるシェアサイクル
- 海岸通り内外の情報発信を行う案内サイン
- 津波発生時の避難を促す避難・誘導サイン
- 海辺らしい風景を創出するヤシの並木の保全
- 散策時の快適性を高めるテーブル・ベンチ